

# 2023年度 関東学生水球リーグ戦水球 【戦評】

会場：日本体育大学

【2023/6/25】

## この試合のプレー集計

### 1部決勝

日本体育大学 19

6	—	0
4	—	1
5	—	3
4	—	0
PSO		

4 専修大学

審判： 潮崎 正一  
黒崎 千智

日	35	SH数	22	専 修 大 学
本	14	速攻数	5	
体	18	ST・SB	9	
育	15	SH・P誘発アシスト	6	
大	73%	GK阻止率	27%	
学	4	EX反則数	8	

ST・SB：ボール奪取・SH阻止

### 【試合の流れ】

今シーズンの1部リーグは、各大学にエース格が散った昨年度の4年生が抜けた影響が出て、全体的にややレベルダウンの様相を呈している。日本体育大学は豊富な戦力から、大きな変化はないものの絶対的なセンターポジション選手が不在だが、より安定感を増した守護神GK①佐々野の守備力を背景にした攻撃力で、ここまで全試合コールドゲームで圧倒してきた。対する専修大学は筑波大学との際どい勝負に競り勝って決勝戦まで駒を進めてきた。専修大も、センター浦、ドライバーの小見といった中心選手が卒業し、個々の実力では日体大に分があるだけに、せめてコールドゲームは阻止したい決勝戦。1次リーグでは日体大16-1専修大(3Pコールドゲーム)と日体大が圧勝した。

#### 1P

日体大が誇るDFの軸をなす⑤山田がボール接点で上回り、そこを起点に主将⑥渡邊がペナルティーを誘発し、日体大が先制。続けて専修大のパスをまたもや⑤山田が奪い、カウンター攻撃で⑨村岡が決めて日体大2-0専修大。さらに⑤山田のボール奪取からセンターで⑩山本が決めて3連続得点。日体大の攻撃全てにDFの要⑤山田が絡み、あっという間に日体大3-0専修大となった。その後は、専修大もシュートにまで至ることができたが、プレッシャーを受けてのシュートのため枠をとらえることができず、そこを日体大に突かれて日体大6-0専修大で第1ピリオド終了。ピリオド中盤、得点王を狙う日体大⑥渡邊がシュートを外し、彼のリズム変調の兆しが垣間見えた第1ピリオドだった。

#### 2P

このピリオド序盤、絶好のシュート場面で日体大⑥渡邊が連続して失敗。6mSHミスに続き、ペナルティ、さらに退水SHも決まらず、日体大攻撃リズムが鈍った。その場面を救ったのが⑧荻原。相手シュートをブロックしてから前線に繰り出し、右サイドに出た⑥渡邊からパスを受けてシュートを決め、悪循環からの立て直し役を果たした。しかし、⑥渡邊のリズムは逆回転し、シュートミスから専修大らしい攻撃を許し、⑩大江にセンターSHを決められて1点を返された。日体大メンバーもやや不満顔。この流れを断ち切ったのが守護神GK①佐々野。専修大シュートをブレイクすると、前に泳いだ⑥渡邊へパス。⑥渡邊もタイミングを見計らって⑦岡へアシストパスを出してペナルティ誘発。このペナルティを⑥渡邊が決めてようやく落ち着きを取り戻した形だ。⑥渡邊はピリオド最後には右サイドからのシュートを決め、日体大10-1専修大と大きくリードして前半を折り返した。

#### 3P

このピリオドに入ると、日体大の圧力がやや鈍り、専修大が次々に日体大ゴール前に迫る場面が増えた。専修大⑪中山がペナルティを誘発して⑥久保に託すが、日体大守護神GK①佐々野がセーブ。そこから⑩山本がセンターで決め、日体大12-1専修大と点差が広がった。しかし、専修大の果敢な攻撃は続き、動きのいい⑦青山が⑥渡邊のパスを奪うとそのまま退水を誘発し、そこを⑫岡本が決めて専修大2点目。さらに、日体大のちょっとした緩慢な対応から、⑨渋谷が連続得点して気を吐いた。しかし、流れを渡さないのがGK①佐々野。専修大シュートをセーブしてからの日体大カウンター攻撃が続き、第3ピリオド終了時点で日体大15-4専修大と点差を広げた形だ。このピリオド、GK①佐々野は専修大SHを7本をブレイクしたことが大きかった。専修大はこの7本すべてが枠内をとらえただけに、GK①佐々野の威力を見せつけられたピリオドとなった。

#### 4P

コールドゲーム阻止が困難な状況が見えてきたことで、専修大がペースダウン。専修大のパスミス突いて日体大が速攻を次々に決めてあっという間に4連続得点で15点差に。結果的には最後の決勝戦も日体大のコールドゲーム勝ち。リーグ戦全試合をコールドゲームで制した日体大となったが、ゲーム序盤のシュートミスからリズムを崩した主将⑥渡邊にとっては少し悔いの残る最後のリーグ戦となったかもしれない。世界選手権などでは大暴れして「日本のエース太陽」に成長してほしい。